

項目	No.	重点目標	具体的取り組み	評価の観点	評価者	目標指標	目標指数	前期指数	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
確かな学力	①	基礎基本の徹底	細呂木タイム等で、国語や算数の基礎的な学力の定着を図る。	細呂木タイム等で、国語や算数の学習の時間を確保している。	教師	取組指標	90	100	年間を通して継続したことで、児童の学力も少しずつ定着してきており、保護者の満足度も維持できている。	今後も系統的にドリル学習等を計画・実施し、基礎・基本を定着させていく。また、細呂木タイム以外でも基礎を大切に授業づくりに励む。	
				細呂木タイム等で国語や算数の基礎的な学力の定着を図っている。	教師	取組指標	90	100			
				細呂木タイム等で、国語や算数の学習に頑張っており取り組んでいる。	児童	成果指標	80	100			
				学校が児童に対して実施している国語や算数の基礎学習の取り組みに満足している。	保護者	満足度指標	80	95			
	②	話す・聞く力の育成	児童が自分の考えを話したり、友だちの考えを聞いたりの活動に取り組む。	児童が自分の考えを話したり、友だちの考えを聞いたりの活動に取り組んでいる。	教師	取組指標	90	100	自分の考えや思いを自分の言葉でのびのびと表現できている。個人差もあるが、それぞれに向上が見られる。	伝える場や受け止める場を今後授業においても設定し、帰りの会や行事の感想発表等を継続して取り組み、さらなる向上を目指す。	
				自分の考えを話したり、友だちの考えを聞いたりの活動ができている。	児童	成果指標	80	94			
	③	主体的・対話的学び	主体的・対話的で深い学びを意識した授業を行う。	主体的・対話的で深い学びのある授業を意識している。	教師	取組指標	90	100	主体的・対話的で深い学びのある授業を意識して行っている。また、タブレット端末を活用して意見共有する場が増え、対話的な学習ができるようになってきている。しかし、自主学習ノート以外の家庭学習の取組が保護者に見えにくく、家庭学習の指数は微減している。	自分にあつた学習を自分で考え、自主的に家で学習に向かう習慣をつけるため、保護者に協力を懇談会等でお願いする。また、連絡帳や家庭学習カード等を通して家庭学習に取り組んだ様子が保護者に伝わるようにする。学校では家庭学習に取り組む意義を日頃から伝えていく。	
				自分の考えと比べながら友だちの考えを聞いて、自分の考えを深めることができている。	児童	成果指標	85	93			
				子どもは、自主的に家庭学習に取り組んでいる。	保護者	満足度指標	80	71			
	④	読書習慣の定着	図書館との連携、親子読書やおうち読書、読書貯金ノートの活動を推進させ、読書習慣の定着を図る。	親子読書やおうち読書等、読書習慣の定着につながるような手立てを取っている。	教師	取組指標	90	100	児童と保護者の指数は微増し、改善傾向である。毎月の読書目標冊数は、保護者が子どもとともに考え、協力的に取り組んでいる。	親子読書や、おすすめの図書の紹介等の取組を継続して取り組んでいく。	
				読書をしたり本の感想を伝え合ったり、読み聞かせを聞いたりの活動が楽しい。	児童	成果指標	80	98			
				子どもは読書をしたり本の感想を伝え合ったり、読み聞かせを聞いたりの活動を楽しんでいる。	保護者	満足度指標	80	63			
	⑤	ICTの活用	ICTを活用した授業に取り組む。	授業力の向上と授業改善のために、効果的にICTを活用している。	教師	取組指標	90	100	児童がタブレット操作に慣れてきたので、学年に応じてできることが増えてきた。	ICTやタブレット端末の活用が効果的な場面で、今後も継続的に活用していく。	
				ICTを使った授業で、学習内容がよくわかった。	児童	成果指標	85	98			

項目	No.	重点目標	具体的取り組み	評価の観点	評価者	目標指標	目標指数	前期指数	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
豊かな心	⑥	対人関係能力の育成	挨拶運動で個々の振り返りと評価を行う。 ソーシャルスキルトレーニングを学活や道徳の時間に取り入れ、学級内でのよりよい人間関係づくりに生かす。	気持ちの良いあいさつ、正しい言葉づかいや相手のことを思いやる言葉づかいができる子を育てるための指導をしている。	教師	取組指標	90	100	明るいあいさつができていると感じている児童が多い。教員も挨拶や言葉遣いの指導をすすめることができた。ただ、もう少し元気の良い積極的なあいさつができるようになると良い。また、相手の気持ちを考えて行動できている児童が多いが、言わなければならないことが言えない場面も見受けられる。	引き続き、ソーシャルスキルトレーニングを実施し、より良い人間関係を継続できるようにしていく。そして、自分の意見をしっかりと伝えて人と関わろうとする力を育てていきたい。また、生活委員会などによるあいさつや正しい言葉遣いについての取組を行い、明るく元気なあいさつや正しい言葉遣いができるようにしていく。	
				学校・地域・家庭で、明るいあいさつや正しい言葉づかい、優しい言葉づかいができている。	児童	成果指標	80	97			
				子どもは、明るいあいさつや正しい言葉づかい、優しい言葉づかいができている。	保護者	満足度指標	80	91			
				SST等を実施し、子どもが自分や相手のよさに気づき、よりよい関係づくりができるように努めている。	教師	取組指標	90	100			
				学校が楽しい。	児童	成果指標	80	97			
				子どもは、学校へ通うのが楽しいと感じている。	保護者	満足度指標	80	97			
				道徳の授業や学校生活を通して、いじめや差別を許さない指導をしている。	教師	取組指標	90	100			
				相手の気持ちを考えて、行動することができる。	児童	成果指標	90	94			
				学校は、子ども一人一人を大切にしている。	保護者	満足度指標	90	100			
				⑦	社会性	縦割り班活動、体験活動等を通して、人権意識、思いやり、認め合う心等を育む。	学活や道徳の時間、縦割り班活動、体験活動等を通して、自主的に活動し、協力し合うことやお互いを思いやる心を育てるための学習を心掛け	教師			
縦割り班活動では、小さい子に優しくできる等、人を思いやる気持ちを大切にしている。	児童	成果指標	80				99				
学校での縦割り班活動、体験活動等は、子どもの協力する心や思いやりの心を育てるのに役立っている。	保護者	満足度指標	80				100				
⑧	チャレンジ精神の育成	目的意識をもって、あきらめずにチャレンジする心を育む。	目標設定、振り返りをさせ、達成感を味わえる活動を行っている。	教師	取組指標	90	100	行事ごとに自分の目標を決め、お家の方からの言葉をもらい、子どもたちの励みになっている。	継続していくとともに、自分の課題をはっきりさせて、より具体的な目標を決められるように促していきたい。		
			目標をもって、いろいろな活動に取り組んでいる。	児童	成果指標	80	98				
			子どもは、目標をもって活動している。	保護者	満足度指標	80	95				

項目	No.	重点目標	具体的取り組み	評価の観点	評価者	目標指標	目標指数	前期指数	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
健やかな心と体	⑨	基礎体力の向上	体育の授業や細呂木タイム(週2回、マラソン、ドッジボール、キックベースボール、縄跳び等)において体づくり運動の強化及び基礎体力の向上を図る。	体育の授業や細呂木タイムで、めあてをもって取り組ませ、体力向上を図っている。	教師	取組指標	90	100	体力向上の取組、学年通信やHPでの連絡、振り返り用紙(めあてを立て、家庭からの励ましの言葉をもらう)などの取組により、効果が出ている。「はびスポふくい」に記録を入力することが、運動することへの励みになっている児童もいる。	引き続き、めあてをもたせたり、マラソンやなわとびカードに書かせたりして、体力向上について、意識させる。	
				体育の授業や細呂木タイムの体づくり、めあてをもって取り組んだ。	児童	成果指標	90	98			
				昨年または年度初めのころと比べ、(体育の授業や細呂木タイムでマラソン、ドッジボール、キックベースボール、縄跳び等を行い)子どもの	保護者	満足度指標	80	99			
	⑩	心身ともに健康な体の育成	「いじめ防止基本方針」に基づき、「心のアンケート」や「教育相談週間」を活かして子どもの心を把握し早期対応を行うとともに、月1回のアンテナ会議及びその後の対策会議の実施で問題の早期解決を図る。	心のアンケートや教育相談週間を生かして、問題行動の未然防止と早期発見・早期対応・事案対処に努めている。	教師	取組指標	100	100	学校では、いじめ未然防止や早期発見等に努めており、悩み事をすぐに教師や家族に相談できるように配慮している。また、年3回のアンケートや教育相談週間の実施により、問題の早期発見に努めている。ただ、人に相談することが苦手な児童がいる。	今後も、常にいじめ対策チームを組織運営し、全体で児童の状況把握に努め、チームで対応する。日頃から学校、学級で話しやすい雰囲気づくりに努める。心のアンケートや教育相談の実施を継続し、教師の目に見えないところで起きていることや悩みを打ち明けられない児童について情報収集し、早期発見・解決できるようにする。スクールカウンセラーと連携を図り、児童の様子を把握してもらい、多角的な児童理解に努めていく。	
				学校で嫌なことや困ったことがある時は、先生や友だち、家族に相談し、悩みや問題を解決することができる。	児童	成果指標	95	89			
				我が子に関して、学校と連絡(家庭訪問・連絡帳の活用含む)を取り合い、子どもを安心して送り出すことができる。	保護者	満足度指標	95	100			
	⑪	生活習慣(食育を含む)	日常的な健康習慣づくりを継続する(給食の時間、栄養士訪問、清潔チェック・歯磨き等)。	日常的な健康習慣づくりに取り組んだ。	教師	取組指標	90	100	児童の健康的な生活習慣はほぼ身についている。そのため、教師が過剰に指導をしなくてもよくなってきている。しばらく実施できなかった給食後の歯みがきも復活し、給食後の歯みがきの習慣も定着してきた。	健康習慣づくりのための、指導のタイミングやポイントを整理し、教師が共通理解をした上で、学校全体で指導できるように取り組んでいく。ハンカチ・ティッシュの携帯、爪切り等について保健だよりで家庭への協力を依頼し、学校と家庭の連携を図りながら取り組む。	
				朝の清潔検査・歯みがき・食のマナーを守る事ができた。	児童	成果指標	80	96			
				清潔チェック・歯みがき・食のマナー等の指導が、子どもの日常的な健康習慣づくりに役立っている。	保護者	満足度指標	80	93			
	⑫	情報モラル	家庭と連携し、健全なネット利用(情報モラル含む)についてルールや習慣づくり、指導する。	家庭と連携し、健全なネット利用(情報モラル含む)についてルールづくり、習慣づくりの指導をしている。	教師	取組指標	90	100	学校での情報教育、家庭でのルールづくりや習慣づくりに努めている。	ネット利用やテレビ、ゲームの使い方や使用時間などのルールについての指導を継続し、かつ家庭で話し合っ取り組む機会を定期的に設けていく。	
				ほそろぎっ子スマートルールを守ることができた。	児童	成果指標	80	96			
				家庭では、学校と連携して健全なネット利用(情報モラル含む)についてのルールづくりや習慣づくりができています。	保護者	満足度指標	80	84			

項目	No.	重点目標	具体的取り組み	評価の観点	評価者	目標 指標	目標 指数	前期 指数	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
開 か れ た 学 校	⑬	ふるさと教育の充実	地域にある文化財や地域行事等を活用したり、外部関係機関やこども園等と連携しながら、ふるさと教育を充実させる。	地域にある文化財や地域行事等を活用したり、地域と連携しながら、ふるさと教育を行っている。	教師	取組指標	90	100	地域と連携した活動を多く取り入れただけでなく、その学習を「あわらの宝」展のCMづくりにいかすなど、事後学習につなげたことで、児童は意識高く地域学習に取り組むことができたと考えられる。	今後も、地域についての学習が見学や体験だけで終わるのではなく、そこから学びを深められたような事前・事後学習の工夫を取り入れていく。	
				地域に関わる学習や活動に参加して、自分たちの地域に興味をもてた。	児童	成果指標	80	99			
				子どもは、自分たちの故郷や地域に関心や愛着をもっている。	保護者	満足度指標	80	88			
	⑭	積極的な情報発信	学校からの各種お便りやホームページ等で、学校や児童の様子の情報発信を行う。	学校からの各種お便りやホームページ等で、学校や児童の様子の情報発信を行っている。	教師	取組指標	90	100	学年通信や学校だより、ホームページでの学校行事の様子の紹介など、保護者への情報発信を積極的に行った。特にホームページでは、これまでよりも写真を多くアップし、様子が伝わるようにした。	今後は、学校からのお知らせが紙面からhome&schoolでのデジタル配信へとさらに移行が進んでいく。スムーズに移行していけるように、使い方などを丁寧に周知していく。	
				学校からの各種お便りやホームページ等で、学校や子どもたちの様子がわかる。	保護者	満足度指標	80	97			
	⑮	安心安全な学校作り	日常生活の中にひそむ現在および将来に直面する安全の課題に対して、自分の身を守るように、安全教育を行う。	日常生活の中にひそむ現在および将来に直面する安全の課題に対して、自分の身を守るように、安全教育を行っている。	教師	取組指標	90	100	警察や消防などの外部機関と連携することで、避難訓練や交通安全教室において災害や交通安全への意識を高めることができた。教員について、救命救急講習会の実施や災害時の対応の確認など、安全対策を行い、意識を高めた。熊対応や熱中症への保健指導など、時期に合わせた安全指導を適宜行った。	今後も熊対策や台風、雪害など、その時期に応じて適宜安全指導を行っていく。避難訓練などを含め、学校教育全般を通して指導を行っていく。	
				交通安全教室や避難訓練を通して、安全に生活していこうという意識をもっている。	児童	成果指標	80	99			
				学校は、「生活安全、交通安全、災害安全」に対する安全教育を行っている。	保護者	満足度指標	80	97			